

ARIBからの
お知らせ

「電波高度利用シンポジウム2007」開催のお知らせ

「電波高度利用シンポジウム2007」は、電波の高度利用技術の動向等に関して研究者等から講演いただくことにより、効率的な周波数資源の開発を推進していくことを目的として、総務省及び社団法人電波産業会の共催により実施しています。

今年、地上テレビジョン放送のデジタル化等による大規模な周波数再編後の「VHF/UHF帯を使用した新たな電波利用システム(仮称)」をテーマとして開催します。会員の皆様には、ぜひご参加下さいますようお願い申し上げます。

記

- 1 日時 : 平成19年12月7日(金) 13:00～
- 2 会場 : 明治記念館 東京都港区元赤坂2-2-23
- 3 主催 : 総務省
社団法人 電波産業会
- 4 テーマ : 「VHF/UHF帯を使用した新たな電波利用システム(仮称)」
- 5 定員 : 250名
- 6 参加申込 : 当会ホームページで参加受け付けします。
- 7 参加費 : 無料
- 8 問合せ先 : 当会 小岩井まで (TEL03-5510-8593)
- 9 会場案内図 :



- JR (中央・総武線) 信濃町駅下車徒歩3分
- 東京メトロ (銀座線・半蔵門線) 青山一丁目駅下車 (2番出口) 徒歩6分
- 都営地下鉄 (大江戸線) 国立競技場駅下車 (A1出口) 徒歩6分
- 都バス (品97) 品川車庫前 - 新宿駅西口「権田原・明治記念館前」下車徒歩1分

第139回技術委員会（放送分野）が開催される

第139回技術委員会が開催されましたので、その概要をお知らせします。

1 日時 2007年11月21日(水) 午後2時から4時00分まで

2 場所 当会第2会議室

3 議事概要

- (1) 素材伝送開発部会委員長から、素材伝送開発部会の活動について報告がありました。
- (2) 放送分野における今後の検討課題に関するアンケート回答各社から、回答内容について説明を頂き、事務局から回答のとりまとめ状況について説明がありました。
- (3) 事務局から、総務省報道資料「放送事業用システムの技術的条件について」（情報通信審議会からの一部答申）について説明がありました。
- (4) その他、事務局から当会の事業スケジュールについて報告がありました。

通信産業の業況見通し

平成19年10月「通信産業動態調査」の結果（速報）
（平成19年11月16日総務省報道発表から）

総務省は、この度、平成19年10月に実施した「通信産業動態調査」（承認統計）による平成19年度第3四半期及び第4四半期における通信産業の業況見通し（速報）を取りまとめました。

なお、平成19年12月下旬に売上高を含む確定値をインターネット（情報通信統計データベース）（URL：<http://www.johotsusintokei.soumu.go.jp/>）に掲載予定です。

概要は以下のとおりです。詳細は<http://www.soumu.go.jp/s-news/2007/071116_3.html>を参照してください。

1 売上高見通し

平成19年度第3四半期及び第4四半期の売上高見通し指数は、電気通信事業は、両期とも [31.7] と、引き続き「プラス」（売上高が増加すると判断した事業者が多い）。民間放送事業は、第3四半期は [▲41.2] と大幅に「マイナス」（売上高が減少すると判断した事業者が多い。）、第4四半期は

[▲20.6] と前期より小幅になるものの、引き続き「マイナス」。ケーブルテレビ事業は、[23.5]、[29.4] と、引き続き「プラス」。

表1 売上高見通し指数

	18年度				19年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
電気通信事業	19.5	34.8	25.5	29.2	12.5	37.0	31.7	31.7
放送事業	4.6	▲24.2	0.0	0.0	▲7.6	4.8	▲19.6	▲3.9
民間放送事業	▲6.4	▲48.9	▲18.8	▲10.4	▲23.4	▲6.8	▲41.2	▲20.6
ケーブルテレビ事業	33.3	36.8	47.4	26.3	31.6	31.6	23.5	29.4
(参考)								
全産業	0.1	21.5	14.4	13.9	0.3	19.0	14.4	15.2

注1：売上高見通し指数(DI)=「増加すると判断した事業者の割合(%)」-「減少すると判断した事業者の割合(%)」。

注2：平成19年度第3四半期及び第4四半期は平成19年度第2四半期末での判断、それ以外は前四半期末での判断。

注3：全産業は「法人企業景気予測調査(平成19年7-9月期調査)」(内閣府経済社会総合研究所及び財務省財務総合政策研究所)から売上高判断(大企業)につき抜粋。

2 資金繰り見通し

平成19年度第3四半期及び第4四半期の資金繰り見通し指数は、電気通信事業は、両期とも[12.2]と、引き続き「プラス」(資金繰りに余裕があると判断した事業者が多い)。民間放送事業は、[35.3]、[26.5]と、引き続き「プラス」。ケーブルテレビ事業は、前期の「ゼロ」から、[▲5.6]、[▲11.1]と「マイナス」(資金繰りが苦しいと判断した事業者が多い)に悪化。

表2 資金繰り見通し指数

	18年度				19年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
電気通信事業	14.6	17.4	21.3	20.8	14.6	23.9	12.2	12.2
放送事業	25.8	24.2	26.9	22.4	28.8	20.6	21.2	13.5
民間放送事業	36.2	34.0	35.4	33.3	42.6	29.5	35.3	26.5
ケーブルテレビ事業	0.0	0.0	5.3	▲5.3	▲5.3	0.0	▲5.6	▲11.1
(参考)								
全産業	3.5	2.5	0.9	2.6	2.3	1.8	0.7	2.5

注1：資金繰り見通し指数(DI)=「余裕があると判断した事業者の割合(%)」-「苦しいと判断した事業者の割合(%)」。

注2：平成19年度第3四半期及び第4四半期は平成19年度第2四半期末での判断、それ以外は前四半期末での判断。

注3：全産業は「法人企業景気予測調査(平成19年7-9月期調査)」(内閣府経済社会総合研究所及び財務省財務総合政策研究所)から資金繰り判断(大企業)につき抜粋。

3 業況見通し

平成19年度第3四半期及び第4四半期の業況(自社の景況)見通し指数は、電気通信事業は、[19.5]、[14.6]と、引き続き「プラス」(業況が上昇すると判断した事業者が多い)。民間放送事業は、[▲26.5]、

[▲14.7] と、引き続き「マイナス」（業況が下降すると判断した事業者が多い）。ケーブルテレビ事業は、両期とも [5.9] と、引き続き「プラス」。

表3 業況見通し指数

	18年度				19年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
電気通信事業	9.8	15.2	14.9	18.8	16.7	32.6	19.5	14.6
放送事業	▲4.5	▲25.8	▲10.4	▲7.7	▲1.5	▲1.6	▲15.7	▲7.8
民間放送事業	▲12.8	▲38.3	▲20.8	▲15.2	▲10.9	▲9.1	▲26.5	▲14.7
ケーブルテレビ事業	15.8	5.3	15.8	10.5	21.1	15.8	5.9	5.9
(参考)								
全産業	1.8	10.5	6.4	602	▲0.9	6.2	9.2	8.6

注1：業況見通し指数(DI)=[「上昇すると判断した事業者の割合(%)」-「下降すると判断した事業者の割合(%)」]。

注2：平成19年度第3四半期及び第4四半期は平成19年度第2四半期末での判断、それ以外は前四半期末での判断。

注3：全産業は「法人企業景気予測調査（平成19年7-9月期調査）」（内閣府経済社会総合研究所及び財務省財務総合政策研究所）から自社の景況判断（大企業）につき抜粋。

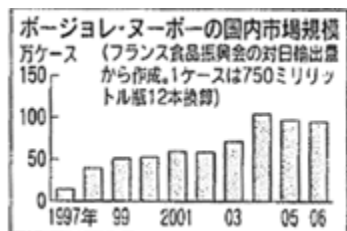
編集後記

先日のヌーヴォー解禁日に、ボジョレー・ヌーヴォーを取材して来ましたのでご報告いたします。まず、入門編から、ボジョレー・ヌーヴォー(Beaujolais Nouveau)とは、フランスのブルゴーニュ地方南部(ボジョレー地区)で生産される赤ワインで、その年の11月に出荷される新酒のことです。なぜ解禁日(その国の現地時間で11月の第三木曜日の午前0時)が存在するかですが、これは簡単に言うと消費者保護のためです。以前はヌーヴォーがよく売れるということで、各メーカーが出荷前倒しをエスカレートさせ、未成熟ヌーヴォーが出回ってしまい、仏ワイン法で解禁日を設けました。

次に、基礎知識編です。なぜフレッシュ・フルーティ(でおいしい)なのでしょう？それは、タンニンの少ないガメイという葡萄の品種を使い、マセラシオン・カルボニック(MC)法で作られているからです。MC法は密閉タンクで皮ごと半発酵させてから搾汁するため果皮の特徴が残ります。また、この製造方法ではわずかながら炭酸ガスを含み、独特の清涼感も感じさせてくれます。

いよいよ、実践編です。日経新聞によると残念ながら国内市場規模は最近落ちており、昨年の1割減のようです(下図左)。しかし流行に流されないワイン好きの人はやや高めのヌーヴォーに人気が移っているようです。ヴァン・シェール・ヴァンの「ヌーヴォー祭り」で、実際に味を取材しました。帝王のヌーヴォーを卒業した人への私のお勧めは、ドメヌ・ラ・ブレーニュ(下図中央)とルイ・ジャド(下図右)です。ドメヌ・ラ・ブレーニュは、クリュ・ボジョレー(最上地区)に指定されるレニエ村のガメイを使用し、手作業での手入れ、選果の厳しい手摘みが売りの手作り感があるボジョレーです。ルイ・ジャドは、ブルゴーニュ有数のネゴシアンで、ロバート・パーカー氏もパーフェクトの5つ星評価をしています。「これを飲んで、ボジョレー・ヌーヴォーのイ

イメージが変わった人多数！」と言われるのが理解できるはず。



日本経済新聞 2007.11.13より



(敬天愛人)

[ページの先頭に戻る ▲](#)